

平成 29 年度中部地方 ESD 活動支援企画運営会議（第 1 回）議事録

日 時：平成 29 年 7 月 3 日（月）10:00～12:00

場 所：中部地方環境事務所 第 2 会議室

参加者：11 名（他傍聴者 2 名）※以下敬称略

<委員/5 名> 戸成 司朗（住友理工株式会社 CSR 部長）
彦坂永利子（愛知県教育委員会生涯学習課 課長補佐）
古澤 礼太（中部 ESD 拠点協議会 事務局長）
松本 謙一（北陸 ESD 推進コンソーシアム ESD コーディネーター）
渡辺 隆一（信州 ESD コンソーシアム コーディネーター）

<中部地方環境事務所/3 名>

永井 均（中部地方環境事務所環境対策課 課長）
曾山 信雄（中部地方環境事務所環境対策課 課長補佐）
村辻 裕樹（中部地方環境事務所環境対策課 主査）

<事務局/3 名> 新海 洋子（中部地方 ESD 活動支援センター 統括）

原 京子（中部地方 ESD 活動支援センター 統括サブ）
鵜飼 真緒（中部地方 ESD 活動支援センター コーディネーター）

欠席者：伊藤 恭彦（名古屋市立大学 副学長）

配布資料：資料 1 平成 29 年度中部地方 ESD 活動支援企画運営会議設置要綱

資料 2 平成 29 年度中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議出席者名簿

資料 3 平成 29 年度中部地方 ESD 活動支援センター運営等業務計画書（案）

資料 4 平成 29 年度中部地方 ESD 活動支援センター運営等業務計画概要図（案）

資料 5 平成 29 年度中部地方 ESD 活動支援センタースタッフ体制

【決定事項】

1. 今後について

- 本日協議した内容を含めて、今年度事業のさらに具体的な**企画書案を作成し送付**する。その後、各組織で共有し企画に対する提案、アイデアをいただくこととする。また、各地域のニーズや希望日・場所などを把握しつつ、各地域のステークホルダーと情報共有しながら確定することとする。
- 企画運営会議の役割及び委員の紹介を HP に掲載するため、**各委員の紹介文書原稿の確認**を依頼する。
- センターの目的は中部地域の ESD 推進ネットワークを形成することである。**各地域、主体が実施する ESD 取り組みに関する情報の提供**をする。
- 作成中の**パンフレットは出来次第、送付**する。各組織のメンバーや地域のステークホルダーに配布する。

2. 次回会議日程

後日 CC メールにて調整するが、1～2月の予定である。

【議事】

1. 開会挨拶 永井 均（環境省中部地方環境事務所 環境対策課長）

本日の会議は中部地方 ESD 活動支援センターの開設日と重なっている。環境省と文部科学省よりメッセージがある。

「地方 ESD 活動支援センターには全国センターや地方公共団体、地域 ESD 拠点と連携しつつ、ESD 推進のためのネットワークを形成していくための広域的なハブとしての機能を果たしていく事が期待されている。文部科学省・環境省両省もこれまで以上に皆様と連携を深め、地方 ESD センターへの支援を含め、ESD の推進に取り組んでまいります。引き続きのご指導ご協力のほどお願い申し上げます。」

他地域のブロックの開設状況は、四国地方が7月1日、関東地方、中国地方が7月3日、その他4ブロックが7～8月にかけての開設予定である。中部地方 ESD 活動支援センターに関しては本日（7月3日）の開設に向けて、中部地方で ESD を実践・支援されている様々なステークホルダーの方々への説明や協力依頼、2回の準備会議を開催するなど、昨年中頃から準備を進めてきた。

中部地方センターは官民協働のプラットフォームであり、東海三県・北陸三県・長野県を対象に、各地域の ESD の取り組みを実践されている主体や組織を繋ぎ、他の地域のセンターや全国センターと連携して、それぞれの実践がより豊かになるようにサポートするという取り組みを行っていく。

今日の会議は、これからの中部地域における ESD 推進ネットワークの基本的な方向性や、センターの活動方針、個別事業、その他必要事項について委員から助言や提案をいただく場として設置する。生まれたばかりのセンターのこれからの活動を方向づける重要な会議である。委員の皆様にはそれぞれの専門の知見に基づいて忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 委員自己紹介

各委員より自己紹介とともに、各地域及び専門的立場で取り組んでいる活動と現状についての報告を行った。

●戸成 司朗氏（住友理工株式会社 CSR 部長）

グローバル企業は SDGs に取り組み始めており、青年会議所も「SDGs と企業の動き」に関心を寄せている。SDGs の取り組みは環境と人権を中心とする国連の目標。そこに中小企業の後継者が関心を示すという事は、ESD が発足してから新しい環境が生まれつつあるのかなと感じている。そういう意味で、新しく発足したこのセンターが、ESD の次のステージにいけるような場になると良い。

●彦坂 永利子氏（愛知県教育委員会生涯学習課 課長補佐）

教育委員会の生涯学習課に所属し、ユネスコスクールに関わる仕事を担当している。愛知県はユネスコスクール加盟が申請中も含め 165 校ある。活動している学校間の活動を互いに知り、それぞれの活動が活発になるような取組を進めている。本会議の中で各地域の話を聞きながら、学校に還元出来るものを見つけたい。

●古澤 礼太氏（中部 ESD 拠点協議会 事務局長）

中部 ESD 拠点は、2007 年に RCE の認定を受け、2008 年 1 月に協議会を立ち上げ、現在 75 程の団体等

が入っている。伊勢湾と三河湾に注ぎ込む河川の流域を伊勢・三河湾流域圏を対象地域として活動をし、持続可能な発展を妨げる課題を抽出して、課題解決に向けて活動を行っている主体と共に学びを進めている。昨今、中部 ESD 拠点として外部資金を得て実施した活動としては、「伝統知と ESD」をテーマに、地域の伝統知を活用した環境保全や地域の活性化の事例を ESD に発展させる取り組みがある。また昨年度より、「中部サステナ政策塾」事業を開始し、持続可能な地域社会のための政策研究など次世代を育む講座を行っている。

●松本 謙一氏(北陸 ESD 推進コンソーシアム ESD コーディネーター)

北陸 ESD 推進コンソーシアムは、富山・石川・福井のそれぞれの県での活動を共有し、北陸地域としての全体の取りまとめを行っている組織である。北陸 3 県に北陸 ESD 推進コーディネーターがおり、各地域で意見交換をするなど ESD 取り組みを進めている。北信越ユネスコスクール交流会の開催や、人材育成事業、国内外のユネスコスクールとの交流の促進などを行っている。北陸三県内の人材活用をどう外部と関連付けていくのかのサポートをしていきたい。

●渡辺隆一氏(信州 ESD コンソーシアム コーディネーター)

信州 ESD コンソーシアムは文科省の ESD の補助事業を受けて活動をしている。信州大学教育学部が中心となり、関係者に声をかけて 2016 年に立ち上げた。ESD の主な構成主体は学校だが、長野県には現在ユネスコスクールが 10 校しかない。そのためにユネスコスクール等 ESD に取り組み学校数を増やすことがひとつの大きな目標である。また、地域(企業・NPO 等)が学校や地域の教育的な活動を支援することが大切と考えている。活動としては 2 年目なので、関係者をネットワークで繋いでいきたいというのが大きな目標である。支援センターと意見交換していきたい。

●伊藤 恭彦氏(名古屋市立大学 副学長) ※欠席のため事務局より紹介。

このセンターが設置されるまでの準備会議に出席いただいていた。公共人材の育成を専門とされ、学校教育のみならず、社会全体として公共を担う人材の育成、持続可能な社会の担い手の育成について幅広く意見をいただきたいと依頼をした。

3. 座長選任について

設置要項第 3 条に基づき、本日は欠席であるが、準備会議より委員として参加いただき、ESD 及び ESD ネットワークに対して広く知見のある伊藤恭彦氏が座長に推薦、選出された。座長代理については、委員推薦により戸成氏が選出された。

4. 平成 29 年度中部地方 ESD 活動支援センター運営等業務計画(案)について

新海 洋子(中部地方 ESD 活動支援センター 統括)

資料 1 の P8 と P10、資料 4 が今年度センター事業の全てである。1 年目であり、1 年目に必要な事業を実施することとしている。他のセンターに比べて、事業量がかなり多い。センタースタッフが 2 名程度なので、効率的で価値

のある仕事がしたい。

資料 1 の P8 にある年間スケジュールの黄色の部分を実施する事業である。資料 4 が全体の構成図である。センターは、「中部地域における ESD 推進ネットワークの形成」を目指しており、そのためにセンターの利活用、地域拠点の拡大を行う。

自己紹介の時に各地域でどのような活動をされているのか説明いただいたが、他にも多様な活動が地域で取り組まれていることを全体として可視化しながら、これまで ESD に取り組んでいなかった人や組織に「ESD の大切さ」を伝えていく取り組みを行う。そして、すでに ESD を実践されている主体はさらに豊かな実践がされるように、今あるものを繋いで今ないものを作り出していくことがセンターの役割だと認識している。それをどのように行うかをまとめたものが資料 4 である。どの地域でもかなり ESD の事業が続いているので、日程が重ならないように、目的を差別化して、抱き合わせて実施できるものはしつつ、ESD 取り組みが豊かになるように取り組みたい。その辺りのアイデアもお聞きしたい。

(1) 地域と連携した地域 ESD 拠点の形成支援 (交流会)について

北陸長野地域で 1 カ所、東海で 1 カ所交流会を行うこととしている。対象者は 20 名とあるが 50 名程度でも良い。交流会はその地域のニーズに合う内容を実施したい。自治体・企業・地域実践者など、地域と連携した交流会となるようにしたい。日程については、地域のニーズや地域の事業の日程、タイミングによって 10 月など変更も可能である。

<質問・意見交換>

- * 交流会の対象者は誰なのか。どのような内容の交流会を実施しようとしているのか。
- * 8 月 6 日に北陸・長野・新潟の教育関係者によるユネスコスクールの交流会が開催される。
- * 地域ごとで積極的に活動している企業や企業団体が、県を超えての交流やネットワーク形成をどう行っているかを知りたい。
- * NPO 同士も同県でも繋がっていないし、当然県外は繋がりが無い。
- * ESD に積極的に取り組んでいる自治体とそうでない自治体とのセッションをしてはどうか。中部 7 県の ESD 担当部局が集まって意見交換をするのはどうか。
- * 単独開催でも良いし、他の行事と重ねての同日開催も可能である。(その場合はセンター主催で別予算を組む)抱き合わせて開催した方が人は集まりやすい。

- * 企業を対象にするのであれば、「働き方改革」をテーマとして、社員がどう社会と関わりを持っていくかという視点で考えるセミナーや交流会を行うとよい。社員のモチベーションをどう上げていくかを考えるなど、経営者にとっては深刻な悩みとなっている。「働き方改革と ESD」の視点でのセミナーや交流会はどうか。「企業は金もうけをするもの」としか考えていなかった企業だけでなく、儲けるだけじゃなくて社会の中に存在する為の組織として企業を考える経営者が出てきている。また、「ESG 投資」というファンドが出てきており、「エコロジー・ソーシャル・ガバナンスがきちんとしていない企業はどれだけ財務指標が良くてもファンドの中に組み入れない」という世界の動きがある。その影響は日本にもあり、企業は環境問題にどう取り組んでいるかを見せる必要が出てきて、今年の CSR 報告書はかなりの企業が SDGs のロゴを使ってくると思われる。

もうひとつの問題は「リノベーション」。日本企業の社員がリノベーションを起こせなくなってきたのはなぜか。決められたことを決められたようにやる従来通りの社員では企業も社員も生き残れない状況のなか、社会課題を含めた感度の高い社員を育むために何が必要かを考えた結果、「社員を外に出すべきでないか」という発想に至る。これらの発想は日本ではまだ少数派である。

- * トヨタ自動車株式会社が「2050年までに二酸化炭素を排出する車を作らない」と宣言したトヨタ環境 2050年ビジョンの影響はこれからどんどん大きくなる。
- * 元々ESDや環境問題に取り組んでいる人々の集まりが7~9月の中で計画されているとしたら、4つのセクター(行政・企業・市民・学校)の人々が顔を合わせられるような機会を作ると良い。1度だけで終わらず継続していけるかという課題がある。
- * コーディネーターをたくさん集めてESDをどんどん広げてほしいという勉強会のようなものなのか、裾野を広げる為に学校や企業を集めてくれるものなのか。地域ESD拠点の形成支援だとすれば、地域で活動を広めてくれる人を集めてESDの意味をコーディネーター全体に広げる為の交流会なら、人材育成はその人たちが学校や会社に直接行くようにすればよい。交流会とフォーラムの質の違いを出さないといけない。
- * ESDを広めるための発信者を集める交流会なのか。色んなセクターの人たちが参加することが大事なのか。
- * 両方大事であり、地域によって必要性が違くと認識している。参加する対象者として一番有効なのは自治体ではないか。
- * 自治体も環境部局だけでなく、こどもや地方創生、福祉、国際理解など他の分野のセクターや色んな部局の職員に参加していただく。その時心配なのが企業である。内容が働き方改革でなら参加があるかもしれないが、自治体の政策といった時にはCSR部局のみの参加になるように思う。そのテーマに関してはフォーラムなど別の機会でも実施してもよい。
- * センターの強みは環境省と文科省の連携であるので、予算規模が小さくてもひとつの武器になる。
- * ステークホルダーを集めるのであれば、省庁連携で行われている事に自治体がどう対応しているかを焦点にし、自治体関係者にESDの関わりを話してもらうのがよい。

- * 働き方改革に関しては、SDGsのほうで話題になっている。安倍総理が取り上げたSDGsの3つのポイントが「働き方改革」「地方でのSDGsの盛り上げ」「民間セクターにおける取り組み」である。ESDとSDGsは非常に親和性が高いので、交流会でSDGsをどう扱うかということが出てくる。SDGsも含めるとなると、県庁の産業労働部は働き方改革にどう姿勢なのかとか、そういった事を発表してもらうことも出来なくはない。
- * SDGsに関しては研究会のテーマで実施したいと考えているが、その前後で交流会やフォーラムのテーマにして広くやっても良い。しかし企業の人を集めるのは結構難しい。
- * 地方自治体の職員にプレゼンターを依頼しステークホルダーが聞く形だと、センターの強みをPRしつつ、ステークホルダーが集まる意義が出てくるのではないかと。各県でESDに関わる多様な部局に参加の呼びかけを行う。
- * 「地域ESD拠点の形成支援」と考えると、中部7県の中でESDに関わるであろう企業や行政、NPOなどを集める会議のイメージがある。しかしそういう人を集めたら20人程度には収まらない。「愛知県で関わる人を2人」と言われたら選ぶのは至難の業である。最初はもう少し対象を絞って呼んだ方がよい。最終的には全部を繋げたいが、いっぺんに色んなステークホルダーを呼ぶというのは難しい。

- * 企業を対象を絞った場合、働き方改革をコアな話題として話してもらい、2つの開催日が近いので、同じような方参加されるとなると異なるテーマでやった方が良い。
- * 愛知県教育委員会が実施している「ユネスコスクール支援会議」という会議体は多様な主体が参画していて素晴らしい。そういった取り組みを他県の担当者と共有し、意見交換をする機会にしてはどうか。
- * 参加者 20 名としている理由はあるのか。
- * 予算の関係もあるが、少人数で ESD ネットワークを形成するコアのメンバーが集まるというイメージである。
- * 今年で終わるものではなく来年も続くものと考えてのであれば、まずはターゲットを行政にして、1 県 3〜4 人とそれに関わる人という限られた人数で、事例研究を通じて交流することを今年の取り組みにしてもよいのではないか。ベストプラクティスの共有、お互いの情報レベルを合わせるという事を今年のテーマにする。
- * 今年度でこれだけの事業を実施するのは、たぶん中部のみではないか。初年度にある程度のステークホルダーのネットワークを形成し、ネットワークを拡大し、各地域での取り組みが豊かになる方策を検討したい。そのためには、継続する為の予算が必要である。「地域が求めていることを実施でき、他地域に汎用することが可能であり、地域の ESD 取り組みの底上げができるネットワーク形成を進める」というロジックでやっていく。事業のクオリティを高めたい。
- * 個別の事業に対して委員にどういったことが期待されているのか。
- * 企画や実施の支援をお願いしたい。各委員が実施される事業と一緒にやった方が効果的である場合は、センターの予算をうまく使って重ねて実施することも可能性としてはある。
- * 委員の所属している組織の会議に合わせて企画書案を送付する。

(2) ESD を推進する人材育成支援業務 (研究会)について

東海で 2 回、北陸で 2 回、長野で 1 回行う研究会である。主に教員などを対象にした「新学習指導要領と ESD 授業」、主に中小企業や企業を対象とした「SDGs と ESD」をテーマに実施することを検討している。費用がかからないような場所での実施を想定している。

<質問・意見交換>

- * 参加人数に対し募集人数が多く来ると予想されるが、その場合は参加者を選別するのか。
- * 少人数を設定しているのは、以前からこの地域で教員を対象とした ESD の授業づくりなど ESD のゼミナールのようなものを実施したいというニーズがあった。その際人数は 7〜10 名程度という話があったので設定をした。場所の都合上だが、10〜12 名程度までは可能である。
- * 少人数でかなり議論を行い、できたら事業提案までしたいという考えである。
- * サステナ政策塾で選考は行っている。
- * 新学習指導要領に関して主には教員、半分は地域(学校教育を理解したい人)にしたい。SDGs は CSR レポートなどにロゴマークを付けている企業をゲストに迎え、他企業、NPO なども含め学びあえる場にしたい。半分は企業、半分は NPO の予定(自治体も可)。その手法をもって各地域でやっていただきたい。
- * 大学でも無料で借りられて、交通の便が良い場所もある。
- * 講師については、文部科学省(併任)国立教育政策研究所の渋谷一典氏に来ていただけないか打診をしている。

(3) ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催について

このフォーラムはキックオフイベントというニュアンスを書いているが、このフォーラムをもって事業を開始するという位置付けではない。センターをより広く広報し、親しんでもらうチャンスという意味でキックオフ的な場にしたい。地方センターによっては地域フォーラムを大々的に行うところもある。

<質問・意見交換>

- * 遠方からの参加者を考えると、名古屋駅前、駅周辺になる。また、100 人規模を収容する施設があまりない。
- * 午後からの開催に時間に変更すれば、名古屋駅界隈でなくても大丈夫かもしれない。
- * 日程、会場、企画内容を今日の内容を元に再考して連絡する。

(4) ESD 活動に関する情報の収集と発信について

①パンフレット作成

情報発信の機能の紙媒体として、パンフレットを制作している(全国センターのものと同セットで配る予定)。全国センターが作成したものは、ESD を理解している人を対象にした内容になっているため、中部地方センターが作成したものは、学校や地域で取り組んでいる人などが馴染みをもって読みやすいようになっている。

②web サイトコンテンツ等の作成

本日 7 月 3 日から全国センターが各センターと同時にサイト立ち上げを行っている。HP に委員とスタッフの紹介を掲載したい。スタッフはすでに掲載済みである。

また、各地の ESD 取り組みの PR をしていきたい。イベント情報や、レポートなど。随時取材等をして掲載記事を増やしていく予定である。掲載する情報のデータもどんどん提供いただきたい。

③スタッフ体制

統括を新海が週 2 日、統括サブを原が週 2 日、コーディネーターとして鶴飼が週 5 日で担う。当面は EPO 中部のスタッフのサポートを得ながら進める。

④その他

*** 地域拠点について**

センターは各地域拠点と連携して事業を実施する。拠点登録をしていただき、登録団体とネットワークを組んで地域の ESD 取り組みの底上げを行うという発想で活動する。交流会などは拠点に登録いただく団体に参加してほしい。

ESD のネットワークが形成されたかをどう評価するかを考えた時に、拠点の登録数が重要な指標となる。拠点の登録者にアンケートを行い、「センターの事業は良かったか」「ネットワークは活用されたか」を汲み取っていく事を考えている。その為にまず拠点の登録数を増やすことが必要である。対象は学校や企業、NPO など ESD に取り組んでいる団体であれば良い。既に繋がっている団体の総会などで声をかけていただきたい。

全国センターに問い合わせたところ、登録書の確定まで今しばらくかかりそうであるとのことだったので、簡易な申込用紙を中部地方センターで作成し、進めていくこととしたい。

